

下野市立祇園小学校

1 学校課題

自分のよさを生かし、互いに学び合い高め合う児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのための授業作りを目指して～

2 研究計画

昨年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を研究の中心として取り組んだ。今年度は、昨年度の取組を基盤として、基礎的・基本的な力を身に付けた児童が、集団の中で他者と協働しながら課題解決に向かう中で、自分の考えを広げ深めていく実践を目指し、研究主題を設定した。また、研究を進めるにあたり、以下の3つの視点を設け、いくつかの具体的方策を例示し、研究に取り組むことにした。



【写真①学び合う児童】

- (1) **研究の視点①** 自分のよさに気付き、よさを更に伸ばそうと努力する児童の育成
指導体制や方法の工夫などによる個に応じた指導により、自分のよさや可能性に気が付いた児童は、学ぶことへの興味や関心をもち、更に自己の力を伸ばそうと努力することにつながるであろうと考えた。
- (2) **研究の視点②** 他者との関わりの中で、多様性を認め、学び合い高め合うことができる児童の育成
学習形態や指導方法の工夫などにより、他者と関わることで気付いた多様な見方・考え方や価値観を、自らの考えに取り入れることで、自分の考えが広がり深まることに気付いた児童は、他者と協働することでさらに自分を高めようとするであろうと考えた。
- (3) **研究の視点③** 「主体的・対話的で深い学び」実現のための教師の指導力の向上
教師が、「主体的・対話的で深い学び」実現のための指導に関する理解を深め、効果的な学習指導を展開するなど、指導力を向上させることにより、「主体的・対話的で深い学び」が展開されることで、研究主題の実現につながるであろうと考えた。

3 研究内容

(1) 授業実践について

①授業研究会の実践

算数科を栃木県総合教育センター水井ゆかり副主幹に、理科を宇都宮大学教育学部人見久城教授に年間を通してご指導いただくことで、指導内容の一貫性を保つことができた。

《授業研究》

教科	学年	日時	単元名	外部アドバイザー
算数科	5年	9月18日(水)	分数の大きさとたし算、ひき算	水井ゆかり副主幹(総合教育センター) 星野友保指導主事(市教委)
算数科	3年	12月4日(水)	分数	水井ゆかり副主幹(総合教育センター) 佐々木功一指導主事(市教委)
理科	6年	6月26日(水)	ヒトや動物の体	人見久城教授(宇都宮大学)
理科	4年	11月27日(水)	冬の夜空	人見久城教授(宇都宮大学)

③授業公開の実施

今年度も、普段の授業を互いに見合うことで授業力の向上を図ることをねらいとした授業公開を実施した。今年度は、6月から12月までの間に1人2授業(研究教科の算数科または理科と自分で選択した教科・領域)の授業公開を行った。【図①】

②研究授業での学びの共有化

研究授業の実施後、各部会(算数部会、理科部会)において、授業を通して確認できた成果や課題、授

	6月	7月	8月	10月	11月	12月
1年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
2年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
3年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
4年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
5年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
6年				算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)	算数(分数の大きさ)
理科						
算数						

【図①授業公開日程】

業研究会で話題となったことや、講師からの指導助言を文書にまとめ、それを配布したことによって研究授業での学びを全員で共有するとともに、日々の授業実践にかかすことができた。【図②】

④授業観察用シートの活用

授業参観の際、授業観察用シートを活用し、授業を見合うようにした。授業後、シートを用いて授業者と参観者が授業について話し合う時間を設けた。また、新たに、図画工作科と体育科用のシートを作成し、技能教科の授業公開にも対応できるようにした。

(2) 具体的な取り組みについて

①個のよさを生かし、他者との関わりの中で互いに学び合い高め合う活動の工夫<視点①②>

各授業において、自力解決の場としての「一人学び」と、見方・考え方を共有したり深めたりする場としての「集団学び」の時間を設定し、主体的で対話的な学びの型の確立を進めた。また、個人の学びを集団の中に生かすための取組として、ペアから小グループ、さらに集団へと段階を踏んだ学習活動の展開やコの字型の話合い活動など、指導方法や学習形態の工夫にも取り組んだ。

②問題解決的な学習の実践<視点②>

研究教科の算数科と理科を中心に、問題解決的な学習の展開を取り入れた実践を行った。昨年度までの事例をもとに、理科では、「問題→予想・仮説→(検証計画)→実験・観察→結果→考察」の流れによる活動展開を基本として実践を積み重ねた。算数科においても、3・5年の「分数」の学習で、児童が授業者としての役割を担い、自分たちで考えた問いを学級全体で解決しようとする活動を試みた。先述の1人2授業公開でも、1単位時間の公開に留まらず、1つの単元を通して公開し、問題解決的な学習を積極的に取り入れるよう全体に促した。

③教師の「話し方」の向上<視点③>

児童の深い学びを促すための教師の関わりとして、話し方についての研修も行った。授業実践記録を用いた教師の話し方の研修会やボイスレコーダーを用いた自己研修などにより、状況に応じた的確な話し方を学ぶ機会を設定した。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 授業での教師の関わり方の質的な向上や、児童同士が学び合う活動の実践などにより、児童が個々のよさに気づき、そのよさを学習活動の中で発揮する様子が見られるようになってきた。
- ② 算数科や理科において、問題解決的な学習の展開が多く見られるようになった。児童の主体的な活動を通して多様な考えが引き出され、児童の学びに広がりや深まりを感じる実践が増えてきた。
- ③ 本研究を通して、これまでの教師主導の授業実践の問題点を認識し、児童の主体的な活動を促し、そこから児童の考えを引き出そうと努力する指導者としての意識の高まりが多くの実践で見られるようになってきた。また、授業に関する教員間でのやりとりが活発になってきたことも大きな成果である。

(2) 研究の課題

- ① さらに深い学びにつながる取組を行うとともに、本校でも顕著になりつつある個人差への対応も行う必要が出てきた。学び合いという観点での実践の研究にも取り組んでいきたい。
- ② 授業公開の期間を昨年度よりも長く設定したが、時期が集中し、参観しにくいという課題が今年度も見られた。授業公開をより有意義なものとするための時期の設定や指導略案の型などの検討が必要である。

第3回学校課題研究会のまとめ

1 日時	令和元年9月18日(水)	2 授業	5年算数「分数の大きさ」と1量「1量」
3 授業者	大塚 雅人教師	4 指導者	総合教育センター 水野 ゆかり先生 計数室 星野 次保先生
5 成果	(1) 「問い・学び」につなげる方策として、児童を先生役とした授業実践の有効性の検証。 (2) よりよい学習実践につながる教科指導としての実践がもつ意味の明確化。 (3) 児童が主体となることで、教師が副指導にあたり、多くの考えを拾えたりすることにより、個々の対応を充実させることができる。 (4) 児童が先生役となるため、事前にその児童とのやりとりが必要になってくる。児童の事前準備も重要である。本時までに、教師がどれくらい「手を振るか」ということの重要性を改めて感じた。 (5) 1単元の公開していただいたため、本時の前後での実践に多くの先生が参観することができ、1単元のマネジメントの仕方についても学ぶ機会となった。		
6 課題	(1) 「グループ協議→発表」で終わってしまう実践が多い。発表を受け、そこで出た意見を振り返り合う活動が重要である。児童の発問のさせ方(板書を指し示しながら、考え方を書きながらなど)や、そこでの教師の関わりがポイントになってくる。 (2) 算数は1時間、1単位時間の中で「ねらい→適用問題→振り返り」の整合性を保つことが大切である。 (3) 「学び合い」が成立する授業の要素として、明確な解答を求めるだけでなく、「最適解」を求める教師の指示がポイントである。 (4) アウトプットされる成果が明確になるよう振り返り活動を進めていくことが大切である。 (5) 本時のような「児童主体」の実践においても、教師の関わり方がポイントになってくる。そのタイミング(発問のおきかえ、考えさせたい質問など)をしっかりと見極めることが大切。 (6) 先生役の児童の学びの保障と、ミコ先生の責の向上。		
7 これからの取組み	(1) 児童間で学び合える学級づくり。 (2) アウトプットされる成果を取り入れる意識を、単なる意見交換に終わらないような取組みをしていく。 (3) 最終的には、児童間のやりとりが主となることを目指したいが、まずは、児童間をつなぐような教師の関わりを重視していく。教師の関わり方を明確にして授業に臨む。 (4) 算数において、考え方を説明するときは、概念的・論理的な説明だけでなく、図表や具象物などを活用した具象的思考も大切にしたい。		

【図②研究授業のまとめ】



【写真②児童主体の授業】